

# お耳のたんじょう日

大木 浩二



健友館

# お耳のたんじょう日

## 第一章 この世…

### ゆうくん誕生

四月八日…。それは、お釈迦様のご生誕された日。  
その有難くも同じ日の夜、午後十時四十八分、ゆうくんは誕生しました。  
看護婦さんに抱かれ、お父さんの前に現れた赤ん坊は、それはそれは、  
玉のように大きな男の子でした。

「とっても元気な、大きな男の子ですよ！」  
看護婦さんの優しい言葉に、  
お父さんは感激と安堵感から思わず泣いてしまったようです。  
(あらあら。このお父さん、これから先が思いやられるわ)  
看護婦さんは少しあきれながらも、  
新米のお父さんを満面の笑みで見守っています。

ゆうくんのホントの名前は裕一朗。  
ゆうくんのお父さんが、裕福になってほしいという希望をこめて、  
そして『朗』という字にこだわりをもってつけた名前です。

「朗らかに、明るく、たくましく育て！」

お父さんの想いそのもでした。



## オナラの威力

ゆうくんが生まれてしばらくたってから、  
田舎のおじいちゃん、おばあちゃんを呼んでお宮参りに行った時のこと。  
神主さんの祝詞の途中、社がきしむかのように、  
「ブーッ」「ブーッ」  
という、大きな大きなオナラの音が二発響き渡りました。

音の主は、おばあちゃんの腕にしっかりと抱かれ、  
グウグウいびきをかいてぐっすりと眠るゆうくんその人です。  
おばあちゃんはもとより、おじいちゃんも、お父さんも、お母さんも、  
ぐっと笑いをこらえてゆうくんの健やかな成長をお祈りしました。

## 気になる耳…

生後八ヶ月。  
夜泣きがひどく、お母さんをとっても悩ませたゆうくんですが、  
ハイハイやつかまり立ちも上手になって、  
やんちゃ盛りをむかえているようでした。

そんな頃、お母さんには気がかりなことがありました。  
「ゆうちゃーん」と呼んでも、おもちゃの音を鳴らしてみても、  
振り向かないことが多いのです。

まさか、聞こえてないとか…。  
お母さんは少し不安になってきました。  
いやあー、うちの子に限って…。  
いちまつの胸騒ぎを感じながらも、お母さんとゆうくんは、  
それから約半年の月日を夢のように過ごしました。